

## 平成15年度問題別研究会

### ● 食の安全性を巡る情勢と家畜生産技術研究の新展開 —プロバイオティクスおよび機能性成分に係る新たな研究動向と畜産への応用—

消費者の健康志向とともに、食に対する安全・安心への関心が高まる中、新たな食品安全行政の動きも踏まえて、畜産物生産の安全性確保のための研究展開が重要となっています。そこで、関東畜産学会との共催により、平成15年11月11日につくば国際会議場にて、206名の参加者を得て、平成15年度問題別研究会として標記シンポジウムが開催されました。

まず、基調講演の「食品安全行政を巡る情勢」(内閣府食品安全委員会事務局 一色賢司次長)と「安全な畜産物生産技術研究の最近の動向」(畜草研 松本光人家畜生理栄養部長)に引き続き、「機能性成分等を利用した鶏肉生産」(愛知県農業総合試験場 伊藤裕和主任研究員)、「食品残さの養豚用飼料としての利用—発酵による安全性確保—」(畜草研 川島知之飼料評価研究室長)、「機能性畜産食品の現状と展望」(北里大学 有原圭三助教授)、「プロバイオティクス研究の新展開」(理化学研究所微生物系統保存施設 辨野義己微生物機能解析室長)、「*Lactobacillus acidophilus* L-92株の抗アレルギー作用」(カルピス(株)基盤技術研究所 石田 優主任)、「乳業用乳酸

菌ラクトコッカスをプロバイオティクスとして利用する試み」(畜草研 木元広実主任研究官)、「乳酸菌のプロバイオティック能を活用した家畜生産技術」(畜草研 蔡 義民主任研究官)が話題提供され、健康維持・増進との関係で注目される乳酸菌や機能性成分の研究動向およびそれらを利用した安全・安心な畜産物生産技術の研究開発方向についての議論、討論が行われました。

最後に、総合討論での松本光人家畜生理栄養部長からの今後の研究方向についての以下の提案により、締めくくられました。

- ①安全な畜産物の生産のため、プロバイオティック微生物および飼料の機能性の解明とそれらを利用した健康な家畜の生産技術の開発が、今後より一層求められる。
- ②食品残渣等の低・未利用資源の飼料化については、量および経済性の確保とともに、安全性確保の技術開発が不可欠である。

なお、本シンポジウムの講演要旨については、関東畜産学会の会誌に掲載の予定です。

(品質開発部 新国佐幸)



横内理事の挨拶



シンポジウム風景